

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	32	実施計画番号	75
事務事業名	子宮頸がん等予防ワクチン予防接種事業		
個別事業名		事業開始年度	平成23年度
担当課名	健康推進課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	青森県子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金交付要綱	関連事務事業	
背景や経緯等	市町村が実施する子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン及び肺炎球菌ワクチンの予防接種を緊急に促進するため、青森県では、平成22年11月にワクチン接種緊急促進基金管理運営要領を制定。それに基づき、平成23年3月に青森県子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進特別対策事業費補助金交付要綱が制定され、十和田市では平成23年度から当該事業を実施している。		
事務事業の目的	若い女性に多い子宮頸がん、乳幼児期の化膿性髄膜炎、細菌性髄膜炎及び肺炎等を予防する。		
実施状況	子宮頸がん：接種対象である中学1年生から高校1年生相当の女子へ案内及び予約票を送付し、13医療機関において、1,213人が接種を受けた。 ヒブ・肺炎球菌：接種対象である生後2ヶ月から5歳未満の幼児へ案内を送付し、11医療機関においてヒブは1,255人、肺炎球菌は1,192人が接種を受けた。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		60	60
	人件費(千円)	0	2,160	2,160
正職員以外	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		24	24
期間業務職員	人件費(千円)	0	214	214

【事業費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)		0	83,950	43,011
うち一般財源			42,146	21,506
うち国県支出金			41,804	21,505
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①		子宮頸がん予防ワクチンの延べ接種回数			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
			回		3,521	1,140
	活動指標名②		ヒブワクチンの延べ接種回数			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
			回		1,757	1,395
	活動指標名③		肺炎球菌ワクチンの延べ接種回数			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
			回		1,821	1,591
成果指標	成果指標名①		子宮頸がん予防ワクチン初回接種率			
	計算式等		単位	22年度	23年度	24年度
			%	目標値	30	90
				実績値	88	
				達成度(%)	293%	
	成果指標名②		ヒブワクチン初回接種率			
	計算式等		単位	22年度	23年度	24年度
			%	目標値	60	50
				実績値	45	
				達成度(%)	75%	
	成果指標名③		肺炎球菌ワクチン初回接種率			
	計算式等		単位	22年度	23年度	24年度
			%	目標値	60	50
				実績値	43	
				達成度(%)	72%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	32
計画No	75

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 欧米では、ヒブ・肺炎球菌ワクチンの導入後、重症感染者が劇的に減少している。日本でも感染する前の早期に接種をすることで同様の効果が期待されており、妥当性は十分にあると思われる。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 子宮頸がん予防ワクチンについては、23年度は十分な成果が得られた。ヒブ・肺炎球菌ワクチンについては、対象者へ一斉にハガキで周知を行ったが、気付かなかったり紛失してしまったとの声も聞かれていた。 一斉発送後は、全戸訪問の際に説明しながら直接手渡ししているため、今後も同様の方法で周知を図っていく。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 事業開始時は、ハガキによりヒブ・肺炎球菌ワクチンの周知を行なったが、それ以降は、乳児家庭の全戸訪問の際に周知している。 子宮頸がんワクチンは、定期接種である麻しん風しんの予防接種の案内に同封して郵送している。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 生後2か月～5歳未満のすべての対象者に対し、公平に接種機会を設けている。 また、接種費用は全額公費負担で行っている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

子宮頸がん予防ワクチンとともに、ヒブ・肺炎球菌ワクチン接種について、予防接種の重要性及び接種案内の周知をさらにすすめ、接種率を向上させる必要がある。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

当事業は、国において定期接種化に向けた検討を行っていることから、国の動向を踏まえ実施し、疾病を予防する。